

見直しませんか、わが家の防災対策

～ 第11回 停電と通電火災 ～

愛岐ヶ丘自治会
愛岐ヶ丘防災士会

今回は停電時の対策と通電火災の防止についての一例をご紹介します。これらを参考にして頂き、日頃の備えに加えて下さい。

停電時の対策

■ 明かり

夜間の停電、真っ先に必要なのが明かりです。停電への備えと対策の例を紹介しますので参考にして頂き、皆さんも工夫してみてください。少しでも明かりがあると、安全・安心ですよ。

- リビングと寝室には、手近な所に懐中電灯を置いておく。
- 懐中電灯には蓄光テープを貼っておく。
- スマホのライト機能も、物探し程度には使える。
- 停電時自動点灯ライトを要所に設置しておく。
- 階段には蓄光付き滑り止めを。
- キャンプなどで使うランタンも、是非用意しておきたい。
- 自作ランタンを作る。

ペットボトル（レジ袋）と小型懐中電でランタンを作ってみました。

👉 トイレtpーパー（以下、「TP」）の芯の中に懐中電灯を上向きに立て、水を入れたペットボトルを載せる。懐中電灯が芯から上に出る場合、TP下の左右に本を置いて浮かせたり、TPを二段にしたりして高くする。懐中電灯が入らない場合は、TPの代わりに大きなグラスでも試してみると良い。

👉 このペットボトルにレジ袋をかぶせると、より光が拡散し易いようです。道路工事現場で時々見かけるボンボリ照明の要領です。

👉 思った程は明るくありませんでしたが、応急として使えるようです。明るさは懐中電灯の照度にもよるので、強力な物が良いですね。

* 白っぽい天井やシーリングライトを懐中電灯で直接照らしても、部屋全体がほんのり明るくなります。

* ロウソクなどの裸火は使わない。特に、地震時は厳禁です。



■ スマホの充電

モバイルバッテリーや乾電池式充電器、手回し充電器（同機能が付いた手回し発電ラジオは、以前、自治会から配布されました。）などがあります。少し高価になりますが、携行できるソーラーパネルもあるようです。車のアクセサリースOCKETからの充電用ケーブルも大変便利です。

■ 100V 電源の確保

停電しても、100V 電源が用意できれば、電子レンジや湯沸かしポット、炊飯器などの電気器具が使えます。心強いですね。その電源確保の例として…

- エンジン式小型発電機（日頃の燃料保管や近隣へのエンジン騒音に配慮しましょう。）
- 住宅用蓄電池（太陽光発電設備との組み合わせは最強です。）
- 100V 用ポータブルバッテリー（長時間の使用は苦手なようです。）
- 乗用車(EV、PHEV など)からの 100V 給電(満タンなら長時間使えます。)

■ 冷蔵庫対策

100V 電源が用意できない時の冷蔵庫対策は？

- 停電した時の冷蔵庫の保冷時間は 2～3 時間。
- 開閉回数は減らす(取り出しは素早く。)
- 冷蔵室には物を詰め込まず、冷気の循環を。
- 普段から、冷凍室には冷凍食品を詰めて貯蔵。
- 日頃から保冷剤を冷凍しておき、停電時の際、冷蔵室に移す。



Haier HP



Panasonic HP

通電火災の防止

■ 感震ブレーカー

阪神・淡路大震災では、原因が分かっている建物火災の約 6 割が通電火災といわれています。これは、停電復旧後の復電によって、スイッチを切り忘れた電気器具から、あるいは、損傷した電気コードや屋内配線のショートにより出火する火災です。

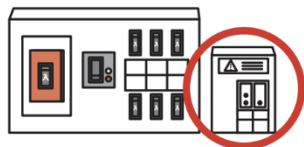
この通電火災を防ぐのに有効なのが感震ブレーカーです。地震の揺れを感知して自動的に電気を遮断するブレーカーで、漏電ブレーカーとは違うので注意しましょう。昨年末自治会から案内がありましたが、改めて感震ブレーカーについてご紹介します（自治会からのチラシも併せてご覧ください。）。

感震ブレーカーの主なタイプ



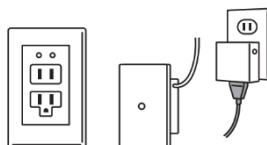
分電盤タイプ(内蔵型)

費用：約5～8万円
(標準的なもの)
※電気工事が必要



分電盤タイプ(後付型)

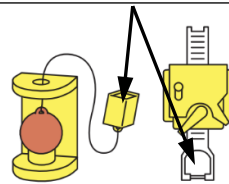
費用：約2万円
※電気工事が必要



コンセントタイプ

費用：約5千円～2万円程度

ここを分電盤ブレーカーのつまみに取り付ける



簡易タイプ

費用：約2～4千円程度

※ホームセンターや家電量販店で購入可能
(電気工事不要)

経済産業省 HP から引用し、加筆しました。

ーロメモ

コンセントタイプ以外は、地震感知の約 3 分後あるいは地震感知と同時に家屋内の全電源が切れ、家の明かりは全て消えます。必要に応じて「停電時自動点灯ライト」を設置しておきましょう。



経済産業省 HP



パンフレット